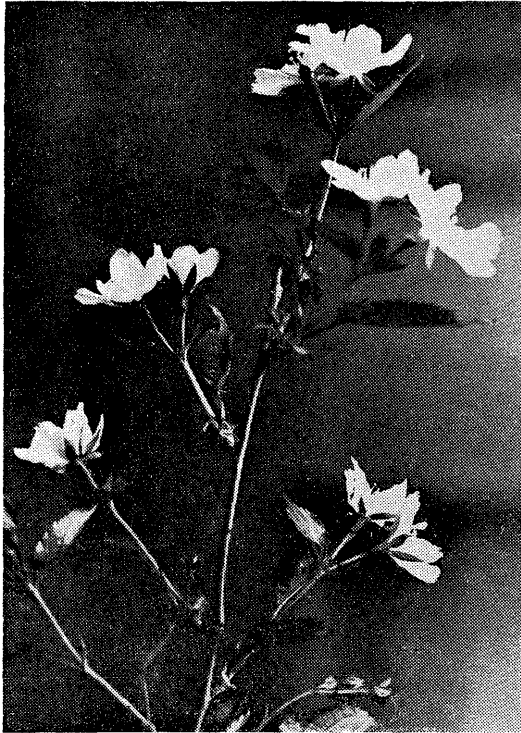


○カタオカザクラ (大井次三郎) Jisaburō OHWI: A juvenile form of *Prunus verecunda* Koehne.

四國の山地にワカキノサクラがあつて、實生後 2-3 年で花が付き、喬木とならずに灌木で終る形が知られ、東京でも稀に栽培されて居る。これは葉が小形で稍細く、鋸齒も稍粗であり、下面も決して白色になることはないが、眞のヤマザクラの實生が全くこの形を取るのを見ると、どうしてもヤマザクラの幼型とより他は考えられない。モモ、



エゴノキその他の種類にも稀ではあるが見られる現象で、ヤマザクラのみに現われるものではない。長く長野縣に居られ、現在日光植物園に勤務中の久保田秀夫氏に昨夏同植物園でお逢した際に拜見したサクラの標本中に見ワカキノサクラに似てやはり灌木状で若くして開花するが葉柄に多少の開出毛のある一型がありカスミザクラの幼型と思われるので品種として記載することにした。久保田氏のお話やノートによると、信濃國松本市外(東筑摩郡片丘村)の山地 海拔約 1150 m 附近のカラマツ植林中に點生し、附近には普通のカスミザクラも自生して居る。

高さ約 60 cm, 大形のものでも

2 m 位までの灌木で、葉は卵形、

廣倒卵形乃至廣卵形で、稍重複する鋸齒があり、基部は通常円く、長さ 4-9 cm, 腺は葉の基部にあることが多く、柄には少しく開出短毛があるが、後には殆ど無毛となる。花梗は稍長く、先端に 2 花内外をつけ、苞は稍葉化し、時に梗の基部乃至中部に 1 個の葉をつける。萼裂片は大形で少しく鋸齒があり、果は黒紫色に熟し、花梗の毛は往々残留する。學名は久保田秀夫氏の令息であり、此の櫻の愛好者であつて、若くして長逝されたノリオ 詔夫氏にちなんだものである。(國立科學博物館)

*Prunus verecunda* Koehne forma *Norioi* Ohwi, f. nov.

Frutex, usque ad 2 m altus, foliis 4-9 cm longis plerumque basi glanduliferis, petiolo parce piloso, pedunculo elongato apice ca. bifloro, basi vel usque ad medium saepe unifoliato, bracteis calycis lobisque subfoliaceis, petalis rubro-suffusis. Hab. in Japonia: Hondo; in Kataokamura, urbe Matsumoto in Shinano, leg. H. Kubota, typus in Herb. Mus. Sci. Tokyo.